

パルプ・紙製造業におけるはさまれ巻き込まれ災害の死傷災害発生事例（2017年）

2017年発生月	時間	死傷災害発生事例	年齢	労働者規模
1	10～11	当社工場内において、抄紙されたジャンボロールをリワインダー機にセットする際、手元が滑り、誤って左中指をリワインダー機の繰り出しローラーの間で挟み負傷した。	61～29	10
1	7～8	本社工場2F西側にある抄紙部門にて、朝、マシン停止後に同僚がルーシプロアのVベルトに亀裂を発見し、被災者と2人で交換作業をはじめた。本来はベルト交換の際にはテンションを緩めて行うという作業手順であるが、それを守らず張った状態で作業を行ってしまった。その為、1本目を掛け、2本目を入れる為に同僚が注意を促しながら1本目のベルトを押しした際、被災者がベルトの内側を掴んで引っ張ったため、勢いでプーリーとベルトの間に左手小指を挟んでしまった。	41～49	30
2	11～12	抄紙機3号マシンキャレンダーパートにて、結露防止対策の為にキャレンダーセカンドロールに紙を巻き付ける作業を、ロールの昇降係と昇降指示をしながら紙を巻きつける係の2名1組で行っていた。紙を巻きつけるにあたりセカンドロールを降下する際に、セカンドロールが駆動しているボトムロールに接触し回転してしまった為に、左手がセカンドロールとサードロールの間に挟まり受傷した。	33～99	50
3	0～1	レワインダー芯棒供給装置で、芯棒台車から中継テーブル間の搬送アームから芯棒が脱落したため芯棒供給装置内に入り、手で修正しようとした。その際に中継台車が動き、フレームと中継台車の間に挟まれた。	49～999	500
5	15～16	工場内で紙の抄造作業中、抄紙機で巻き取りロールに紙を送る際の姿勢が不安定であったため、ドラムと巻き取りロールの端で指を挟んでしまった。	67～29	10

7	10~11	トイレットペーパーの製造工程において、原紙（ジャンボロール）のコアプラグ（約20kg）を外す際、自分が予想していた以上にコアプラグが重く、その重さに耐えきれず地面に置いた際、指を挟み負傷した。	27	100 ～ 299
7	6~7	ワインダーコアー自動供給装置にて、コアー台車のセット不良アラームが発生したので台車セット用リミットスイッチに不具合があると考え、一旦パネル操作にて台車保存装置を開放とし、すぐに固定側へスイッチを着替えたのちリミットスイッチの作動を確認（台車保持装置開放とした事で台車が固定ブラケットより100m/m程離れた）この時リミットスイッチがONとなり保持装置が作動、離れていた台車が引き寄せられ、台車と固定ブラケットの間に右手中指が挟まれ被災した。	42	100 ～ 299
9	9~10	加工2号機のワインダードラムロール部において、被災者は、ロールへの紙粉付着に気付き、ワインダー作業を一時停止させロール清掃を開始した。操作リモコンにより寸動を繰り返し清掃を行っていたが、ドラムロールが完全に停止する前に手を出し、製品巻き取りとドラムロールの間に右手人差し指を挟まれ被災した。加工途中でのロール清掃作業は、手順として認められておらず、危険作業に対する認識が欠如していた。	33	100 ～ 299
9	23~24	N1マシンリール前で枠替え作業を実施違反を取り卸しフックに移動するため、クレーンを操作し原反を荷揚げした。原反を取り卸しフックに掛けようとしたところ、駆動側のシャフトがストッパーを越えてしまい原反が左右に回転した。振れを抑えようと咄嗟にシャフトの取っ手に手を出し、リールフレーム部とシャフトの間に指を挟み被災した。	38	100 ～ 299
9	23~24	ロールとロールの間に紙を通す際、左手が巻きこまれ中指及び薬指を負傷、骨折する。	35	50 ～ 99
12	14~15	段ボールシートの生産ラインで紙切れが発生した為、その復旧の通紙作業中、スムーズに紙が通らず、それを直そうと安全柵から身を乗り出す形で作業を行った為、誤って機械に右手が巻きこまれ負傷した。	49	50 ～ 99
		レシコンベルト取り替え中、レシコンベルトのガイドを取り付けられず、ベルトガイドが固定出来る位置まで元起しプーリーを回し、ベルトを移動させようとした。		100

12	13~14	レシコンベルトを押す作業者の合図で手回しをした際、元起しプーリーを回そうとした被災者は、プーリー食い込み側にてVベルトを掴み回したため、ベルトが回った直後に左手環指がプーリーとベルト間に巻き込まれた。	56 ~ 299
----	-------	--	----------------

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_09.html